2025-3-1

服がくれる福

3年3組 5番　伊藤美雨
3年3組29番　中濱友香
3年3組35番　南野乃衣瑠

Keyword: 「ファストファッション」「労働問題」「環境問題」

1. はじめに

私たちが普段当たり前のように身につけている服、そこに隠されたファストファッションの問題に目を向け、約1年間探究活動を進めてきた。私たちは服を作る過程で環境問題や労働問題が生じているという事を知り、これにより苦しい思いをしている子どもがいるという現状から、自分達になにか出来ないのかと考えた。ファッションという身近な存在が巻き起こしている問題から目を背けてはいけないと思い、この問題解決への企業の取り組みや私たちにできることは何かを探した際に、まずは自分達の活動を校内へ発信することから始める事にした。

2. 序論

ファストファッションとは、「流行の最先端をいち早く取り入れた、低価格で、ほどよい品質」のファッションを言う。例を挙げると、GU、ZARA、GAPなど皆さんの身近にあるブランドはファストファッションである場合が多い。そんな便利で高品質のファストファッションだが、今世界的にさまざまな面で問題視されている。その中で大きく、労働問題や環境問題が挙げられる。

労働問題は主に低賃金、長時間労働、劣悪な労働環境の三つがあり、ファストファッション業界で働く労働者の多くは、低賃金で働いている。一部の国では、最低賃金すら支払われていないことや、残業代が支払われないこともある。そのため、労働者たちは長時間働いても、ほとんど労働に見合った報酬が得られず、搾取的な労働条件が常態化している。また、大量の商品を生産するため、多くの労働者が長時間労働を強いられている。１日12時間以上働くこともあり、労働者たちの健康にも悪影響を与えている。さらに、児童労働や強制労働などの人権侵害も問題視されており、ファッション産業は、これらの倫理的な問題にも責任を持って対処・改善していく必要がある。製造工場では、安全で健康的な労働環境が確保されていないことがあり、工場の安全基準が不十分であったり、労働者たちに適切な保護装備が与えられていなかったりすることがあるため、労働者たちは、重大な労働災害や健康被害にさらされることがある。実際に、このような労働環境によって悲惨な事故も発生している。

環境問題では、水質汚染、大気汚染、大量の廃棄物が挙げられる。洋服を製造するためには大量の水が必要とされ、世界の工業用水汚染の20％は、繊維の染色と処理に起因している。製造時にかかる環境負荷だけでなく、実は私たちが洋服を洗濯するときにも、マイクロファイバーやマイクロプラスチックが海洋に流出しているといわれている。化学繊維の製造には、大量の化学薬品や有害物質を使用する。これらの物質が大気中に放出されると、大気汚染の原因になります。石油由来の合成繊維を材料とした製品製造にかかる温室効果ガス排出量は、合計12億トンのCO_2に相当し、これは世界の国際航空業界と海運業界を足したものよりも多い量だ。環境省の調査によると、年間で一人当たり約12枚の衣服が捨てられており、さらに一回も着られていない服が一人あたり25 着もあるといわれている。現在、捨てられた洋服の95%はそのまま焼却・埋め立て処分されている。その量は年間で約48万トンに上り、この数値を具体的に換算すると、大型トラック約130台分を毎日焼却・埋め立て

していることになる。このような問題に企業は様々な取り組みを行っている。ZARAはブランドや状態を問わない衣料品などを回収し、分別して非営利団体に支援している。他にも、ユニクロでは不要になった自社ブランドの製品を世界各国の店舗で回収し再利用する「全商品リサイクル活動」を実現している。

3. 本論

・活動結果

(1)服福プロジェクト

便利でオシャレなファストファッションの裏側にどのような問題があるのかを知ってもらう事で服を買う時に少しでも意識してもらえるのではないかと考えた。そして、捨てる服をリサイクル・リユースする方法を私たちが提案し、その重要性についても知ってもらうために、プロジェクトを行なった（図１）。

このプロジェクトは、いらなくなった服をリメイクしてティッシュケースを作ろうという私たち独自の企画だ。楽しくファストファッションを知ってもらうという事を目的とし、本校の中学1年生～高校3年生の全生徒にポスターによって呼びかけ、集まった約10名でファストファッションの簡単な説明をした後、ティッシュケースを作成した。事前に自分達で裁断しておいた生地を使って参加者に木工用ボンドを使って作成してもらった。

図１　服福プロジェクトのワークショップ

(2)アンケート

ティッシュケース作成後、参加者にアンケートをとった。

①このプロジェクトを通してファストファッションの印象はどのように変わりましたか？という質問に対して、「自分達と同じくらいの年齢の子達も過酷な労働をさせられているとは知らなかったので、安く売られているというだけでなく裏側には大変な事があるという考えに変わった。」「自分が何気なく使っている物の原料を遡ると、労働問題に苦しめられている人達と繋がるんだと思うともっと物を大切にしようと思った。」といったファストファッションに対する見方が変わったという意見が多かった。

また、②プロジェクトに参加した感想については、「自分たちでいらなくなった服を再利用してティッシュケースを作ったので、捨てる服が多くならないよう服を買いすぎないようにしようと思った。」「リサイクルとか言ってるけど、服を送りすぎて途上国で要らない服が溜まってるらしいので、服をそのまま送るよりこうやって何か使えるものに変えて送るの

はすごく良いと思った。」などと、プロジェクトを踏まえて自分達でも何かできる事がないかを考えた回答がいくつかあった。

・考察
　このプロジェクトを始める前は調べ学習ばかりだったが、イベントを実施した事で他の人の意見を取り入れられ新しい考えの発見や、自分達の活動を広められた実感を得る事ができた。ファストファッションの問題点について知っている人は多かったが、アンケートの結果で、解決するためにどのような事をすれば良いか考えさせられたという意見が多かった事から行動には移せていない人もいる事が分かった。現状を知らない人にだけ伝えるのではなく、知っている人にも伝える事が重要だと学んだ。

4. 結論
　私たちは、ファストファッションの現状を多くの人に伝え、自分ごととして捉えてもらう事で少しでも解決に近づく事ができると考えた。そのために私たちは、自分たちが労働問題や環境問題について学んだ後、校内で招集した生徒たちに問題を知ってもらい、独自で考えたいらなくなった服をリサイクルする方法を提案した。簡単な取り組みではあったが、本校の生徒や留学生と取り組みを行なった事で結果が出たのではないだろうか。
　プロジェクトを実施してファストファッションの現状を伝える事で、少ない人数ではあったがこの問題を身近に感じて、意識を向けてもらう事ができたと考える。しかし、授業の一環で行なった成果発表の際に、外部から来られていた先生からの質問に対してすぐに答える事ができなかった。この時初めて自分達のファストファッションの知識不足を実感した。
　今後の課題として、活動場所を広げていきたいと考えている。まずは自分達の地域で私たちが知っているファストファッションについての知識をできるだけ多くの人に伝える事から始め、少しずつ規模を大きくしていきたい。そのためにも、これからも自分達が学ぶ事を忘れず、厳しい環境で労働させられている人々の助けになれるよう努めていきたい。

5. 参考文献・出典
環境省　これからのファッションを持続可能に
https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/index.html, (2023-11-07）

Spaceship earth ファストファッション業界が抱える環境問題・労働問題とは？
https://spaceshipearth.jp/fast-fashion/, (2023-11-07)

ユニクロ　RE.UNIQLO
https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/sustainability/planet/clothes_recycling/re-uniqlo/, (2023-11-07)

ZARA 衣類寄付
https://www.zara.com/jp/ja/sustainability-collection-program-mkt1452.html, (2023-11-07)